

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
大学院生研究
2006年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	ビジネスデザイン	研究科	ビジネスデザイン	専攻
指導教員	所属・職名			氏名	
	ビジネスデザイン研究科・教授			廣江彰	印
自然・人文の別	自然		・	人文	
個人・共同の別	個人		・	共同	名
研究課題名	大都市型中小企業の新しい経営者像 ～「ベンチャー、ビジネス論」を越えて～				
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年			氏名	
	ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻博士前期課程 3年			古田雅美	印
研究組織	在籍研究科・専攻・学年			氏名	
研究期間	2006		年度		
研究経費	190,756		千円		

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

日本経済において多数を占める中小企業の中でも、大都市型中小企業の担い手である経営者に焦点をあてることにより、ベンチャー・ビジネス論以降の新しい中小企業経営者像を捉える事が現在の日本経済の地域経済格差を知る上で必要不可欠であると考えた。その実態を捉え研究する上で、現段階における都市型中小企業経営者についての調査を経営者対象地域である豊島区の概況を見ていきながら経営者へのインタビュー及びアンケート調査から得た情報により考察し、現在の中小企業家像を明らかにした。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[中小企業] [経営者] [都市型]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

1. 研究の目的

本稿の目的は日本の中小企業の担い手である経営者像を対象に分析し、日本経済において多数を占める中小企業経営者の今日の特質を捉えることで、ベンチャー・ビジネス論以降の新しい中小企業家像を描くことにある。もちろん多種多様な存在である中小企業、とりわけ中小企業経営者像を単一的に捉えることは出来ないが、常に日本経済において「新陳代謝」を繰り返し、日本経済の競争力の基底を支えている中小企業経営者を明らかにすることは、現代の日本経済の地域経済格差を知る上でも不可欠なものであると考える。

戦後新たに始まった製造業中心に展開される中小企業研究は、大企業との関係で「問題性」がある存在として日本経済の近代化と共に中小企業はその存在を減少させていくことが主流とされていた。しかし、日本経済において今日もなお中小企業が多数を占めているという現実には中小企業が如何に重要な役割であるかを証左しているに他ならない。このような中で、清成忠男の「ベンチャー・ビジネス論」や同種の中村秀一郎は中小企業の積極的な存在意義を明らかにした研究を行った。他方、地域経済の担い手としての中小企業研究には、個別産業論や産業集積論としての中小企業研究が多く行なわれてきている。

本稿では、そうした先行研究を踏まえ、とくに「新しい中小企業像」を描くことから、やがて「ベンチャー・ビジネス論」として開花させた清成忠男の研究を視野に入れ、今日の中小企業家像を描くことに主眼をおいている。旺盛な新陳代謝を繰り返すことで日本経済の活力の源となっている中小企業を、その主体である中小企業家に着目することで、清成忠男以降の新たな都市型中小企業経営者の実態に迫りたいと考えている。

2. 研究の方法

研究の方法としては、都市型中小企業の経営者を調査研究するにあたり、中小企業の産業変遷とそれに伴う新規中小企業経営者の変化という 2 つの側面から調査を行った。

第 1 章では導入部として中小企業の範囲と先行研究について述べ、第 2 章では中小企業の産業変化の特徴について概観し、第 3 章では今回対象とする都市型中小企業の産業の中心について整理を行った。

第 4 章では第 2・3 章で述べた中小企業の産業変化による経営者の変化や都市型中小企業経営者について明らかにし、第 5 章では前章で都市型中小企業の経営者について調査がほぼ明らかにされていないため、現段階における都市型中小企業の経営者についての調査を経営者対象地域である豊島区の概況を見ていきながら経営者についてインタビュー及びアンケート調査から得た情報により考察し現在の中小企業経営者像について明らかにした。

また「新しい中小企業経営者像」を対象とするにあたり、都市型中小企業の中で「副都心」として日本の中で一日の乗客数が第 2 位のターミナル駅を持つ「豊島区」の経営者についてインタビュー・アンケート調査を行った。

3. 結果

調査の結果、今までにはないタイプとして、当初から経営者になることを前提にそのノウハウを大企業に求め就業したあとに起業をするという新たな起業の形による経営者像を見ることができた。

従来、都市型中小企業がサービス業中心であることから、経営者の学歴が高い、経営者としての意識が高いという特徴が挙げられていたが、業種に関わらず都市型中小企業経営者全体が、学歴が高く、経営者の意識も高いということが明らかになった。都市型中小企業経営者は時代と共に敏感に経営を行っているため、業種別による経営者像の相違点は必ずしも見られなかった。以上の点を詳細に示すと以下のようにいうことができる。

研究成果の概要 つづき

- ・ 経営者のタイプとして能力発揮型が全経営者で当てはまったことが理解することができる。また今までにはないタイプとして、当初から経営者になることを前提にそのノウハウを大企業に求め就業したあとに起業をするという新たな起業の形による経営者像を見ることができた。
- ・ 経営について理念を持って経営していることから、生業的な経営者はいないことが理解できた。
- ・ 創業にも時間を要さず起業し、また『豊島区』、『池袋』という企業集積地あるいは巨大なターミナルに魅力を持ち起業した経営者が多いことが伺えた。
- ・ 当初予定していた仮説とは多少異なる中小企業経営像が明らかとなった。高学歴であり、大企業出身者が多いという点では仮説どおりであったものの、年収向上のために中小企業経営を行っている経営者がいないことは予測していなかった。これは現代の都市型中小企業経営者の経営者に対する価値観が、従来のものとは全く異なり『能力を発揮する』、『仕事に自由度がある』など自分らしい仕事を行うために起業したケースから見ることができる。
- ・ 中小企業の後継者問題が社会的問題としてあげられているケースが「中小企業白書」等によって見受けられたので質問を行ったが、現在の都市型中小企業経営者には「後継者問題」を問題としている経営者は無かった。

※ この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)